

## 「うるう秒」挿入に伴う緊急地震速報への影響について

平成27年7月1日09時00分の直前に「うるう秒」が挿入されますが、これによる緊急地震速報の誤報等の影響を防ぐため、下記の通り海底地震計の緊急地震速報への利用を一時停止いたします。この間は、緊急地震速報の発表が遅れる場合があります。なお、津波警報および地震情報の発表への影響はありません。

### 記

#### 1. 利用停止期間

平成27年7月1日08時50分から09時05分頃まで

#### 2. 利用停止する観測点

緊急地震速報に利用している観測点のうち、東海沖から熊野灘にかけて設置している以下の7観測点（別紙参照）のデータ利用を停止します。

- ・東南海ケーブル式海底地震計（5点）
- ・DONET（2点）

これらの観測点では挿入された「うるう秒」の間のデータが破棄されることにより地震波形データに不連続が生じるため、緊急地震速報の作成処理で地震波の振幅や到達時間を誤認するおそれがあります。

：国立研究開発法人海洋研究開発機構が紀伊半島沖熊野灘に設置・運用している「地震・津波観測監視システム」。気象庁では同機構の協力を得て、このうちの2観測点を緊急地震速報に活用。

#### 3. 利用停止による影響

利用停止期間中に、上記の海底地震計の周辺で地震が発生した場合、緊急地震速報の発表が通常時に比べて最大で12秒程度遅れる場合があります（別紙参照）。

なお、津波警報及び地震情報に用いる震源やマグニチュードの算出では、職員がデータを精査しており、発表時間や内容に影響はありません。

本件に関する問い合わせ

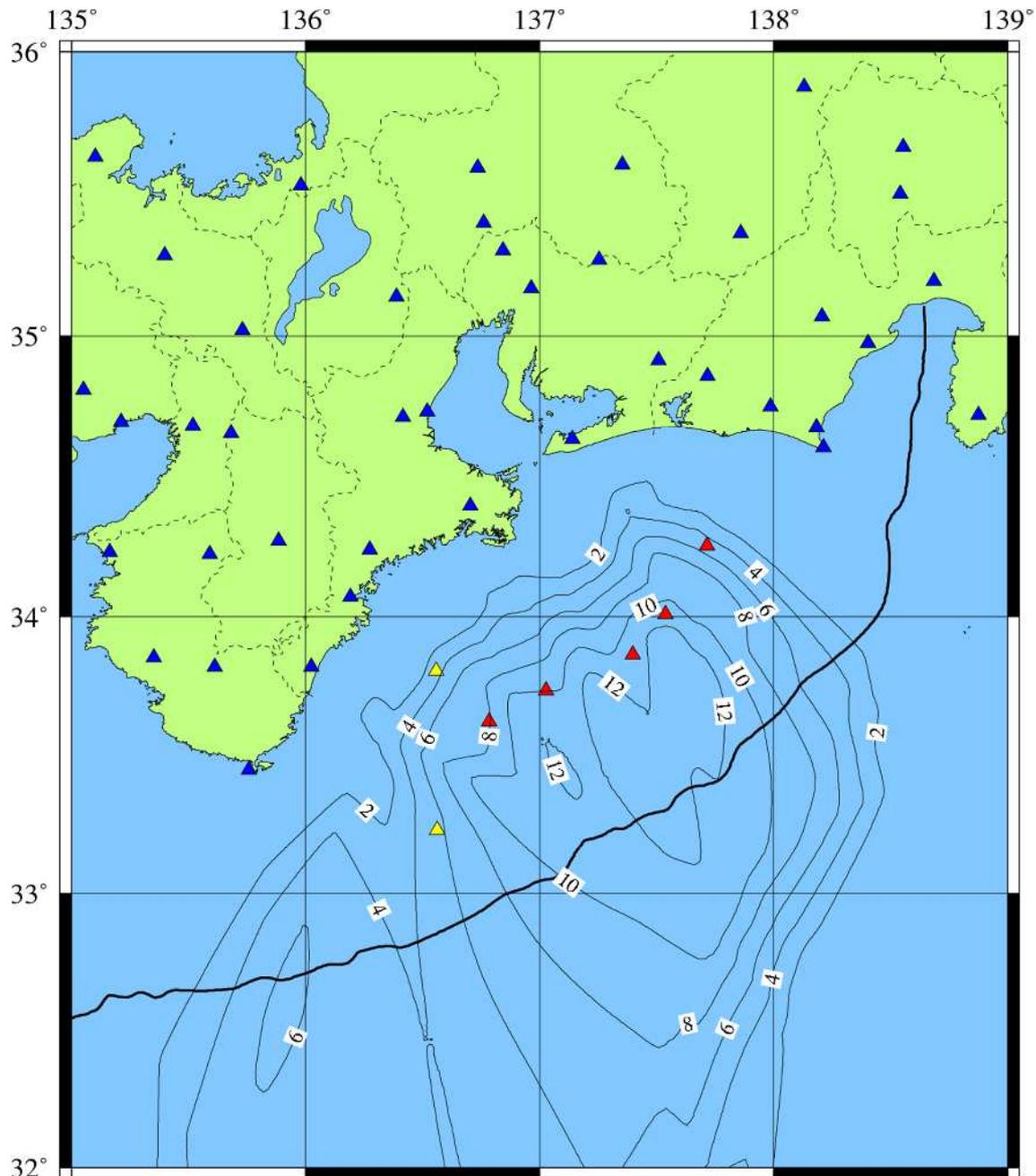
「うるう秒」対応について：気象庁地震火山部管理課

Tel 03-3212-8341（内 4504、4506）

緊急地震速報処理について：気象庁地震火山部地震津波監視課

Tel 03-3212-8341（内 4542、4544）

## 今回の観測点の利用停止時の緊急地震速報への影響について



気象庁が緊急地震速報に利用している観測点

- : 東南海ケーブル式海底地震計 ( 5 点 )
- : DONET ( 2 点 )
- : 多機能型地震計 ( 全国約 275 点 )

「多機能型地震計については、「うるう秒」の間のデータを破棄せず連続的に処理するため、「うるう秒」の影響はなく通常どおり利用します。

図中の等値線は仮に地震がその場所で発生した際に通常より緊急地震速報の発表がどのくらい遅れるかを、秒数で示したものの。